



6月1日(水)

2022年(令和4年)

発行所:東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
〒100-8051 電話(03)3212-0321

毎日新聞東京本社



水と共に生きる

2022年6月1日、東京都千代田区麹町でWOTA株式会社社長、前田瑤介氏による「#地球塾2050」の講演会が行われた。私達は現在起こっている水問題について詳しくお話を伺った。水問題の現状を知り、一体何ができるのか考えるきっかけにもなった。

日本の現状と技術

世界では現在、地球温暖化や気候変動によるさまざまな影響が出ている。日本でも局地的に大雨が降るゲリラ豪雨、全く雨がふらない干ばつ、最近では埼玉や千葉で急に気温が下がり、ひょうが降るなど、異常気象による被害が増えている。日本の上下水道システムは浄水場と下水処理場のある大規模集中型だ。しかし、水道管が老朽化して交換したり、地震などの自然災害により設備の根幹が壊

れて工事したりする場合、復旧までに時間がかかる。

水は無くしてはならない当たり前の存在であり、並んでも欲しいものだ。蛇口をひねって水道の水を利用して、水をリサイクルしていく新しいシステムを作っているのがWOTAだ。

WOTAの製品は小規模分散型なので、災害時のリスクも低い。また、人手を介さず自律しての水処理であるため、人件費もカットできる。(安藤幸太郎)

被災地で活躍

WOTAは、人類の水問題に対し、普遍的な解決方法を実現するために2014年に設立された。16年の熊本地震の際には、被災地にポータブル水再生処理プラント「WOTA BOX」の試作機を運び込み、入浴支援に貢献。その後の

繰り返される災害のたび

に、被災地でシャワー入浴を提供した。それらの経験をもとに、試作機の改良を重ね、ついに19年、WOTA BOXの販売に至った。水道のない場所での水利用を実現し、これまでに避難所で、延べ2万人以上に安全な水を提供してきた。(矢野マリア)

何事にもチャレンジ!

2030年には地球上で40%の人が水不足に陥ると



新たな水のシステムを

日本は現在、地域の過疎化や水不足、災害などの様々な問題を抱えている。WOTAは自宅で水を循環させる「WOTA BOX」を全国に設置し、災害時などに役立てていくことや、一家に1台置いて、小規模分散型水循環システムを取り入れた社会の実現を目指している。WOTA BOXは現在使用されている上下水道システムとは違い、1日で設置でき、災害時にもリスク分散が可能である。(片山心晴)

言われている。こうした

ち早く取り組むべき問題に対して、WOTAは今までは違った取り組み方で挑戦している。前田氏が重要だと言うのは、何度も勇気を持って挑戦し「新しいことをすぐ試す」ことだ。また「目的をもつ」ことで目的に向かう時間を大切にできたそう。こういった経験をもち前田氏がいるからこそ、WOTAという会社は生まれたのだろう。(松村 璃子)



画期的な機械

私達が住んでいる島国・日本は水源に恵まれているため、世界中の問題である水不足という問題を忘れてしまいがちだ。SDGsの六つ目に「安全な水とトイレを世界中に」という課題がある。安全できれいな水は不足している。前田氏とWOTAの社員たちは一人でも多く、きれいな水を使ってほしいという思いからWOTAを設立した。WOTAの製品を使うことで、汚い水をきれいにし、水も再生可能にしてしまう。画期的な機械だ。(中尾光稀)

